

中国の諺に「螻蛄（とうろう）後方（しりえ）にあり」があります。螻蛄とはカマキリのことです。荘子が畑を散歩していると、枝の上に鷲がとまって何かを狙っている様子でした。鷲の先を見るとカマキリがセミを狙っていました。カマキリはセミを捕えようと夢中になって自分の後ろに鷲が迫っていることに気が付かないでいるのです。そこで荘子は、自分も鷲のことに夢中になっている内に誰かに後ろから狙われているのではないかと気付いて「螻蛄後方にあり」と叫んで逃げ出したそうです。誰かを攻撃している時は自分のことが見えなくなって、自分を守ることが疎かになっているという戒めの言葉になったそうです。

今朝の聖書の記録は、イエス様を陥れようとしたファリサイ派の人々がヘロデ派の人々と組んでイエス様に「皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか」と質問した話です。返事次第ではイエス様を葬ることが出来ると考えたのです。すると、イエス様は彼らの魂胆を見抜いて、「税金に納めるお金を見せなさい」と言われました。彼らがデナリオン銀貨を持って来るとイエス様は「これは誰の肖像と銘か」と言われました。彼らが「皇帝のものです」と答えると、「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言われました。彼らは驚いて立ち去ったと書かれています。この時、彼らは「螻蛄後方にあり」であることを知ったのです。デナリオン銀貨には「アウグストの子、神なる皇帝、最高の祭司長、ティベリウス・カエサル」と皇帝の像と共に刻まれていて、イエス様を陥れることに夢中になって神殿の中に偶像を持ち込んでしまったのです。これが人々に知られると自分たちが石打の刑にあうと気が付いたのです。

イエス様が言われた「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」とはどういうことでしょうか。「螻蛄後方にあり」どころか、「神様に命を頂いた人間としてもっと輝いた人生を生きなさい」と言われたのだと思います。創世記2:4～7節には、神様が土から人間を造られ、鼻に息を吹き込まれると人は生きたものとなったとあります。人間は神様が愛と計画を持って造られた生き物だから、生きている間に生きる喜びを味わい、大地を耕し、神を礼拝し、神様から預かっている命を活かして、感謝する人生を生きなければならないと言われたのです。

人間は誰でも自己中ですが人も物も世界も自分のものにするには出来ません。利益のために自然を破壊し、子孫にその付けを回すような生き方ではなく、神様からの預かりものとして感謝して共に生きることを命の道として生きましょう。